

# 三十周年事業報告

## 別府史談会

### 三十周年記念事業の概要

#### 記念事業のあゆみ報告

副会長 恒松 栖

#### 一 創立三十周年記念事業の立ち上げ

平成二六年になったころから史談会役員会の席で、創立三十周年記念事業について話題にするようになった。

創立二十周年記念事業の成果が、印象的であった為にあまり積極的な発言はなかった。中でも記念事業の中核に据えた『別府の古い道 歴史散歩』が、強烈な印象を残し出版物が好評で、今でも現物著書を求める人が絶えない。このことが起因だったのか三十周年記念事業の話題は盛り上がりが見られなかった。

平成二七年を迎え、いよいよ具体的な企画段階へと進まないと創立三十周年記念日がさしせまってきた。具体的な事業

推進の企画立案に迫られ、平成二七年五月十日の年次総会において記念事業の基本的な構えと実施概要を提案し、了解を経て急激に作業を開始することにした。

平成二八年五月の年次総会と創立三十周年記念日を重ねるとわずかな期間となり、到底間に合わない日数となっていた。そこで、記念事業の記念式典や記念講演会を二八年五月に行い、市内・市外史跡訪問と記念出版物は二九年度内に実施・発刊するという猶予をもって行うことにした。

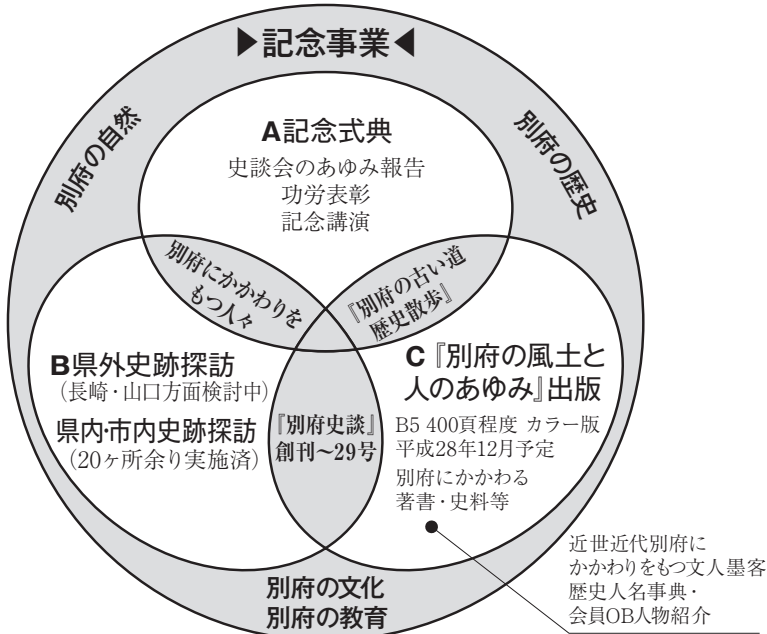
#### 二 記念事業の基本構想の立案

二七年五月の年次総会において、別府史談会の創立三十周年記念事業は、A、記念式典 B、市内・市外史跡探訪 C、記念出版の三つの柱立てとすることに決定した。

記念式典ではこれまで三十年間にわたって多大な功績を残された方々の表彰を行う。役員として事業推進に多大な功績を残した方や数多くの研究論文を執筆し機関誌の『別府史談』に掲載した方等幅広く功績のあった方を表彰し、あわせて別府史談会の記念事業にふさわしい講師を招へいして「特別記念講演」を行うことにした。

史跡探訪では市内及び県外探訪を企画することにした。市

## 別府史談会 30周年記念事業全体構想図



〈『別府史談』29号 95p より転載〉

内史跡探訪は、リニューアルなった別府市公会堂及びび山の手方面で実施することにし、県外史跡探訪は、これまで日帰りの史跡探訪に限られていたが、記念事業であるので一泊二日の「泊を伴う研修」に拡大することにした。参加者の人数に

は少し不安はあったが記念事業なので積極的に行うことにした。行先も長崎方面で、ユネスコの世界遺産の指定が話題となっているキリシタン遺跡関係に集約することにした。

記念出版については、これまでに行政等ではなかなか手が付けられていない領域や人物について執筆する。また、これまで会員によって永年積み上げられた研究成果をコンパクトに盛り込むこととした。その構想を「別府史談会三十周年記念事業全体構想」したものが別図のとおりである。

### 三 記念事業の具体的な展開

#### ① 別府史談会功労者表彰（功労者八名）

永年別府史談会の事業推進に当たって多大な功績を残された方々を、別府史談会創立三十周年記念式において表彰する。昭和六二年に史談会が発足して以来、各種役員から一般会員までほぼ七百名に達する。友人や知人・先輩に誘われ入会したもののすぐ亡くなられた方や家庭や仕事の関係でやむなく県外への転勤となった方など様々である。また、会の重要な仕事を担いながら病に倒れ継続できずに退会された方もいる。それらの中で残念ながらすでに故人となられた方もいるが、会の事業推進に当たって積極的に寄与できた方々を記念

事業の一つとして表彰した。

別府史談会功労者表彰（八名）

○（故）安部 巖氏 史談会創立発起人、副会長、会誌配付や会費徴収など交流親和につとめた。

○（故）藤内喜六氏 創立発起人・基本事項である規約や会誌の発刊などの確立につとめ、役員七年間。

○大野保治氏 永年副会長・会長を勤め、史談投稿原稿十六件、巻頭言三本を執筆した。

○（故）後藤重巳氏 永年副会長・会長、『古い道歴史散歩』出版責任者、会員へ参考史料配付につとめる。

○入江秀利氏 永年史談会事務局長・顧問、研究方向の基礎確立に努め、論文二〇本執筆する。

○（故）相良範子氏 永年副会長を務め、提案論文五本、市内史跡探訪時に経済的支援で多く貢献する。

○永井清廣氏 監事、副会長、顧問、二十周年事業『別府の古い道 歴史散歩』の出版提案。

○三重野勝人氏 副会長、一七年間役員、投稿論文七本。会誌『別府史談』出版に多大な貢献。

なお、昭和六二年に発足した別府史談会に当初からかわり、三十年間にわたって史談会を支えてくれた方々が約二十

名いる。その方々に勝るとも劣らない現会員が一八〇名ほどいるのが史談会にとっては大変な財産であり会員の功績であることを申し添えておきたい。

### ② 特別記念講演の実施

創立記念にかかわる内容として特別記念講演を、前別府大 学学長 豊田寛三 先生にお願いした。

講演の演題は、別府市にかかわりの深い「近世大分の風呂と温泉」についてであった。会員それぞれが温泉についての思いを講師の先生と共有できた楽しい講演であった。

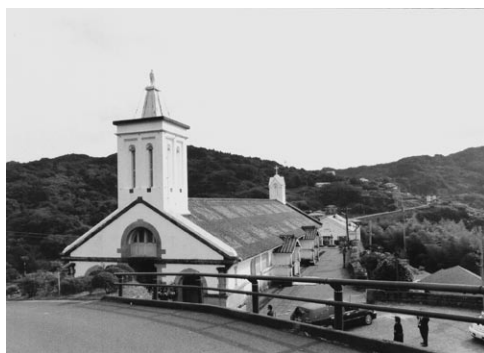
### ③ 市内・県外史跡探訪の実施

○ 市内史跡探訪 八月  
（別府市公会堂及び山の手方面）

リニューアル新装なった別府市公会堂の状況をつぶさに見学し、改装された室内の新しい



油屋熊八の碑（別府公園内）



長崎市外海教会群風景（恒松葵氏提供）

発見をした。また、山の手方面では旧赤銅ホテル跡や柳原白蓮の歌碑を見学し、別府公園内の「油屋熊八の碑」を訪ねた。そののち旧野口病院旧館の見学をし、解散した。

○ 県外史跡探訪（一泊二日の県外研修旅行）会員・非会員二五名参加。

百科事典的なもの」として仕上げた。

○ A4版、カラー印刷、362ページ。写真234点、図版82点、人物紹介52名。

○ 会員をはじめ大学教授・行政職員など極力多くの人々に執筆を依頼し、質の高い歴史に残るものを目指してまとめた。

○ 執筆に当たっては、一項目について極力一ページまたは二ページ見開きにまとめ、写真や図版を多く取り入れ読みやすくした。専門用語や難解事項はページごとに解説文を欄外に挿入した。

○ 史談会会員を主体に、家族や知人など幅広く活用していただくことを期待して編纂し、内容は四部構成でまとめた。

#### 第一部 別府の自然・歴史・文化・教育

別府の位置や特徴、山々・川・湖沼・高原・丘陵・気象・災害。別府市の変遷、交通の発展・温泉と街並みの発展・人口や地域の広がり、特色ある地域産業・名のある建造物・温泉別府の文化財、別府で生まれた文化活動、別府の教育

#### 第二部 別府にかかわりを持つ人々・歴史人物事典

近世・近代別府にかかわる文人・墨客、別府歴史人名辞典。政界・財界観光・学術文化・芸術・教育・医療福祉・女性の社会活動など、別府の墓碑・記念碑・歌碑等

#### 第一日 別府駅西口出発―別府インター―佐世保中央イ

ンター―平戸市役所―平戸島文化的景観―田平教会―  
宿舎

#### 第二日 宿舎発―長崎市外海歴史民俗資料館・外海の文

化的景観―遠藤周作文学館視察―遠藤周作文学館出発  
―川平有料道路―金立サービスエリア―別府駅西口着  
―解散

#### ④ 創立三十周年記念誌『別府の風土と人のあゆみ』の発刊

別府の今日の自然・地理・歴史・文化・教育及び別府にかかわる人々のあゆみなどが一目でわかる「近現代別府の

第三部 別府史談会のあしあと

歴代役員、研究内容、記念講演及び研究発表、市内・市外史跡探訪等

第四部 別府史談会にかかわりをもつ人々の歩み、会員・

OB人物紹介

史談会員・OB会員人物紹介、別府にかかわりの深い著書・史料・研究物・絵図等を年次ごとに五三〇点紹介

○巻末項目索引は、人物・内容事項を八二四項目に集約して挿入し、活用・利用しやすいものを目指した。

⑤ 三十周年記念誌の編纂裏話アラカルト

○編纂委員会は、友永会長をはじめ手嶋、矢島、伊藤事務局長に外山、山添、恒松の3副会長の七名で構成した。記念誌の全体構成から執筆、校正と日を追うごとに作業は複雑で難題が山積みであった。

校正が山場にかかった十一月から十二月にかけては延べ十二回の回を重ね、夕刻の六時から十二時過ぎまで寸暇を惜しんで集中した。互いに高齢ということもあって健康を気遣いながらの作業は難題であった。

○Y編纂委員の話だとこれまでの人生の中でこれくらい鍛

われ、熱中させられた経験はなかった。良くも絶えたことだ。自分自身に感謝したい。T編纂委員は、人生にはいろいろあるけれど数人が集中してこんなに仕事を進めることはめつたにない。これが最後かな？。S編纂委員は、こんな貴重な体験を六十代かそれよりも若い会員に経験してもらえなかったことは残念であり、我々の責任なのかもしれない。

○今回の執筆は、個人紹介などの事項が多くあったので肖像権、プライバシー、著作権、許諾権、版權、占有権など日ごろはあまり耳にしない事柄が沢山出版物をつくるにはかわることがあった。いずれの事項も個人情報に関わる事なので、慎重のうえにも慎重に扱う必要があることが身に染みた。また、近代的なインターネット情報も簡単には使えないこともわかり苦労した。

○T編纂委員が手続きをしたことの中に大分合同新聞社や今日新聞社発行の新聞記事の扱いも大変難しく、使用するには使用許諾願いが必要であった。国土地理院の地図使用、出版社発行の図書の引用等についても許諾申請の必要があった。執筆するときは、自作のもの以外は基本的に使用許可があることを肝に銘じておくことが必要で

ある。特に、写真等の扱いでは肖像権や作成・撮影した人の著作権があることに注目して活用することが大事である等々の学びをしながらまとめ上げたそのエネルギーに感謝である。

#### 四 三十周年記念事業の足跡（要点のみ略記）

平成二十七年、三月二十四日、創立三十周年記念事業について

協議を始める

五、一〇 総会並びに記念講演会、三十周年記念事業実施の方向を提案し、決定する。

七、一八 三十周年記念事業の全体構想及びタイムスケジュール、

ジュール、記念誌編纂委員会の決定、立ち上げ。

八、二三 役員会、創立三十周年記念事業趣意書、刊行物の

内容・執筆依頼文書、人名辞典関係対象者取り出し、人物紹介文内容①～⑩項目を想定決定。

九、二七 役員会、記念誌原稿依頼、予算関係の見通。

一一、三〇 人物紹介原稿提出、人名辞典人物決定・掲載人数の決定、被表彰者・記念講演講師の推薦、依

頼文送付等で原稿依頼・原稿受け取り・編纂委員付加修正・印刷回し。

二八、三、八 『別府史談二九号』発行、研究発表。総会準備、

式典、予算等について検討。

五、一〇 総会、役員決定、予算・決算承認。記念式典、

三十周年の経過、功労者表彰。記念誌の編纂経過報告、豊田先生の記念講演。

六、二一 記念誌の総目次最終決定、人物・人名総数出揃

い、初稿～二稿に向け校正作業開始。欄外解説項目の決定。会員の人物紹介未提出者への執筆再依頼文送付。

八、四 記念誌編纂最終作業タイムスケジュール決定。

第一部より順次回し読みで校正開始、校正を一つにまとめて、印刷送り。市内史跡探訪実施。

九、二五 役員会、人物紹介の校正を本人に送付。返送依頼。五百名以上の写真・本文の確認作業。

一〇、一〇 記念誌の仕様詳細決定、B5～A4へ。別府関係の書籍、史料等の点検・校正。表紙の写真決定・表紙の文字揮毫を荒金大琳氏に依頼。

一〇、一八 編纂委員会、湯山にて一八時から二四時頃まで延べ一二回二次校正を行う。一部から四部まで交代で読み合い校正印刷送り、全体の読み通し

を会長が行う。記念誌価格最終検討。県外史跡  
探訪出席者の再募集、予約バスの小型へ変更。

一一、一八 校正終了の原稿を印刷所へ送る。印刷部数

一〇〇〇部及び販売価格四〇〇〇円を決定。

一一、一九、二〇 県外史跡探訪で平戸・長崎海外方面へ一泊二泊、二五名参加。

一一、二八 インターネット取材の記事について再検討の必要が指摘され、再点検開始。出版物の引用や許諾願いの確認作業。『別府史談』三〇号と三一

号を合併号とし、平成三〇年三月に発刊する。

一二、四 人名・事項索引等の最終校正開始。一月中旬印刷開始は困難と判断、一ヶ月延期の決断をす

る。一月末の発刊とすることに苦渋の選択。

二九、一、一六 最終校正原稿を印刷に回す。印刷開始。

一、二八 記念誌『別府の風土と人のあゆみ』発刊。マスコミ発表、会員への販売開始。

二、一 会員・OB会員、取材関係者等への販売促進開始。関係機関への購入依頼文書の送付。

六、四 定期総会、記念誌の販売促進、会員の協力要請。正誤表の配布。

一二、二八 『別府の風土と人のあゆみ』は、会員及びお

おくま書店（TEL2218145）で販売し、

残部がわずか二〇〇部ほどになった。希望者は

はやめにお申し込みください。

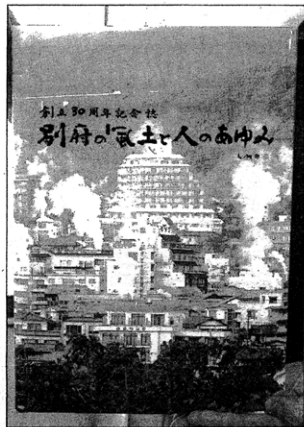
### 創立三〇周年記念誌

『別府の風土と人のあゆみ』紹介新聞記事

## 別府史談会の創立30周年記念誌

# 郷土への思いなど深めて

## 自然や人物などを市民感覚で網羅



創立30周年記念誌『別府の風土と人のあゆみ』

別府史談会（発刊委員会）は1月30日、創立30周年記念誌「別府の風土と人のあゆみ」の発売を開始した。1冊4千円、千部限定。  
記念誌は、A4版、フルカラー印刷の300ページ。写真36枚、図版52点を載せ、人物写真は、写真入りで338人を取り上げており、そのうち366人は写真掲載していない。  
4部構成になってお

り第1部「別府の風土」、第2部「別府にかかわる人々」、第3部「別府史談会のおしあ」と、第4部「史談会にかかわる人々」のあゆみ。  
第1部は別府の自然・地理・歴史・産業・教育、第2部は別府にかかわる人物、近隣の文人・墨客、近現代の各回の短名士をおまひで掲載した。第3部は別府史談会30年の歩

※同時期に大分合同新聞・毎日新聞等が出版紹介記事を紹介してくれた。

（平成17年2月7日 今日新聞記事より一部転載）